

## 第120回 東葛しぜん観察会

### お正月飾り作り

遠藤 鏡子(柏市)

日 時：2015年12月13日（日）10時～12時 天気：曇り

場 所：松戸市民会館 202会議室（松戸市）

参加者：31名、子ども2名、指導員14名

担当指導員：草野、日野原、遠藤（鏡）、三角

今年も年末恒例お正月のしめ縄飾り作りを行いました。今回は「緑の募金による自然に親しむ活動」の助成をいただき、実費の参加費で開催しました。お正月飾り作りを通して、使われている植物のいわれを知り、人の暮らしと植物のつながりを知ることを目的としたこの教室は、毎年東葛しぜん観察会で大人気のイベントになっています。今年も申し込み開始と同時に30名の募集はあっという間に定員に達し、キャンセル待ちが出るほどの人気ぶりでした。

お正月飾りは、生きる力や幸せを授けて家の中を元気いっぱいにしてくれる年神様をお迎えするためのものです。まずは作り始める前に、お正月にゆかりのある植物、橙、ユズリハなどを紹介。ユズリハは前年の葉が若葉に後を譲るように落葉することから橙とともに“代々家が繁栄しますように”という願いを込めてお飾りとして用いられます。ウラジロ科のシダは裏が白く、「心に裏や偽りがのない純白なことを示す」縁起物です。また、縁起物として欠かせないものということで万両（マンリョウ）、千両（センリョウ）、百両（カラタチバナ）、十両（ヤブコウジ）などの植物も順番に紹介しました。

お正月飾り作りは、人数が多かったので、はじめに飾りを作るグループと縄を縄う（なう）グループの二班に分かれて作業を行い、それぞれが作り終わった時点でお互い交代して、もう一方のパートを仕上げるということで行いました。縄を縄う作業は最近、生活ではほとんど経験することがなくなったことから、初めての参加者がほとんどのようでした。最初は藁を3つの束に分け一束ずつ撫っていくのですが、一人で撫るのはなかなか難しく、撫っては緩み、撫り直せば今度はもう一方の束が緩み、悪戦苦闘の参加者もいましたが、一人で縄うのが難しい参加者には指導員が手伝って、無事全員縄い上げることができました。

しめ縄につけるお飾りには、みずみずしい松の葉にマニキュアで色付けした松ぼっくり、ハンノキなどの小さなもの、各種のお飾りピック、水引きなどを使ってみんな思い思いにきれいにアレンジしていました。

最後に、出来上がったお正月飾りを見せ合ってみんな満面の笑みで終わることができました。

これで新年の神様が安心して降りてくれることでしょう！

